

在校生からのメッセージ

学類4年 Eさん (発達障害)

- 就職活動をいつ始めたか。
3年生の2月頃。
- 将来のために大学で取り組んでいること
将来に向けて、という意識で取り組んでいたことはほとんどなかったと思います。強いて言うなら、将来、組織の一員になることに慣れておこうと考えて入った学園祭実行委員会での取り組みが一番就職活動に活かせたと思います。
- 後輩へのメッセージ
就職活動中は、自分の心の健康を最優先にしてください。しっかり息抜きをして、美味しいものを食べて、よく寝てください。辛くなったら周りの人に頼ってください。身近に相談相手がいらない人は、就職課の方やダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターの先生方を頼ってください。皆さんの就職活動が上手くいくことを願っています。

人間総合科学研究科障害科学専攻1年 Yさん (運動・内部障害)

- 就職に向けての希望や迷っていること
就職をするのか、さらに研究を続けるのか迷っています。学んでいることを生かし企業などで、現場から変えていくのも面白いと思う一方で、このまま研究を続け、何かを求め続けるのも面白いと感じています。
- 理想の社会人像
障害者の雇用が大きく変化している中で、「障害者でもできる」ではなく、障害の有無にかかわらず「何をしたいのか」を求められると考えます。「私でもできる」ではなく、「私だからできる」を求めています。
- 後輩へのメッセージ
つくばは面白い！やりたいことが叶えられる場所です。勉強を頑張るのも良いし、遊びまくる(?)のも良いのではないのでしょうか。一人ではどうしようもない失敗も、あるのかもしれないですが、それを含め楽しんで！

数理物質科学研究科物性・分子工学専攻2年 Cさん (発達障害)

- 就職活動をいつ始めたか。
修士1年生の5月頃
- 将来のために大学で取り組んでいること
常に新しいことをすることを心掛けていました。この姿勢は企業からもチャレンジ精神旺盛と評価させることが多かったです。私の場合は研究以外の面を中心にいろんなことに挑戦してみました(楽器、インターンなど)が、一部このような行為よりも、いかに研究に没頭しているかのみを見る企業もあるので要注意です。
- 後輩へのメッセージ
私の就職活動は、どちらかといえば失敗だったとも思います。それは、第一志望の企業や業界を明確に決めずに就職活動を始めてしまったからです。面接では第一志望かどうかはかなり入念に見られるので、そこで志望動機があまりしっかりしていないために選考に落ちてしまった企業が私の場合は数多くありました。また内定獲得後にどの企業に行くか迷ってしまったのもこのためです。これから就職活動をする人は、なぜ自分が就職活動をするのか、どんなことを仕事にしたいのかを明確にして就職活動に臨んでほしいと思います。

大学3年生

大学院1年生

大学1年生

大学2年生

大学4年生

大学院2年生

障害科学類3年 Fさん (視覚障害)

- 就職に向けての希望や迷っていること
私は将来、特別支援学校の教員になりたいと思い、筑波大学に入学しました。しかし大学生活を送る中で教員になるとしても、卒業後教員になるのか、大学院に進学するのか、一度就職してから教員を目指すのかといった様々な道があることを知り、卒業後の進路で悩んでいます。
- 将来のために大学で取り組んでいること
一つは、障害のある先輩との繋がりを大切にしています。障害があるからこそその悩みや不安があると思うので、困った際に相談できる先輩の存在は大きいです。二つ目は、早めに情報を得るようにしています。健常の学生はこの時期にどういふことをするのか、等早めに調べておくことで、自分は視覚障害者としてこんなことをしなくてはいけないのかな、といったイメージをして準備することができます。どんな準備が必要か等イメージが持てない時は、先輩に相談して自分なりの方法を考えたいです。
- 後輩へのメッセージ
まずは大学生活を楽しんでください。そして、大学生活を通していろんな人と交流して自分の視野を広げてもらえたらと思います。学内外問わず、面白そう!と思ったら、飛び込んで、いろんな経験をして、将来につなげていってほしいと思います。

理工学群数学類4年 Bさん (聴覚障害)

- 就職活動をいつ始めたか。
3年生の11月頃。
- 将来のために大学で取り組んだこと
聴覚障害学生支援チームのある委員会の部長を一年間だけ務めました。その活動の中でチームワーク・仕事の進め方が学べたのは大きかったと思います。他にも自分の学類のゼミ、そしてバイトにはしっかりと取り組みました。また、将来の仕事イメージとしてExcelのスキル(VBA)も積極的に勉強を進めていました。友達は資格勉強をしていたと聞いたので、それもやっておけばよかったなと思います。
- 後輩へのメッセージ
ほとんどの人は就職活動を大変に感じると思います。ES(エントリーシート)は早めに自己分析を済ませて書き始めること、面接は社会人との接触機会を増やすことで対策できると思います。そして、自分一人ではなく就職課、家族、友達など多くの人たちと協力して乗り越えてください。また、大学生活も大切なことですので、就職活動だけを考えずに今を全力で楽しんで過ごし、悔いのないものにしてほしいと思います。

人文文化学群卒業 Dさん (学外の大学院に在学中, 発達障害)

- 就職に向けての希望や迷っていること
語学教師、あるいはその語学に関する研究者を目指しています。
- 筑波大学在学時の経験で役に立ったこと
保健センターでのカウンセリングと支援室の先生方からのサポートの経験は現在とても役に立っています。私は在学時に発達障害の診断を受け、カウンセリングとサポートを受け始めました。カウンセリングによって自分の苦手なことが分かり、現在大学院の先生やインターン先のメンターの方に具体的な配慮をお願いすることができています。また、以前は一人で何でもしなければと思い込みパニックしてしまうこともありましたが、支援室の先生方にサポートしていただくようになってからは、困ったときは誰にどうやってサポートを求めればよいか分かり、うまく人に頼ることができるようになりました。
- 将来を見据えて取り組んでいること
私は初めてのことが苦手なので、いきなりどこかで働き始める前に、働く練習として学生のうちにインターンシップに参加することにしました。そのインターンシップを通じて、将来働く場所でどんなことを配慮してもらえば働きやすくなるかを探りながら、「配慮してほしいことリスト」を作成しています。例えば「メールは箇条書きにしてください」「私がメモをとっているときは話すのを待ってください」など、将来の職場ですぐに提出できるよう今から具体的な要望を書いてまとめています。
- 後輩へのメッセージ
私が大学生活で最も重要だと思うことは、やはり勉強です。私の場合は、専門科目の勉強にしっかり取り組んだことで、得意なことを活かせる専門分野に進むことができていると感じています。それからもう一つ、大学にある様々な支援の仕組みを積極的に利用することも大切です。自分はどんな支援が必要なのか、どんなとき誰にどうやって頼ればいいのかを学びながら、色々なサポートをうまく活用することができるようになるといいと思います。